でとうございます

賀正

困難を乗り越えて
「”郷土のまちづくり“の確かな歩みを」

積丹町長　松井秀紀

明けましておめでとうございます。

令和6年（2024年）の新しい年を町民の皆さんとともに迎えることができました。

4年に及んだ未知のコロナウイルスや35・2度の猛暑との闘い、農業・漁業・商工観光業の不振、初めて運営する廃止バス路線対策など、厳しい町の環境下にありましても、郷土の可能性と再生を信じ、みんなで力を合わせ頑張っている多くの町民の皆さんの叱咤激励や、新しい町おこしに挑戦する皆さんの若い力と活躍の姿に接し、本当に勇気づけられた一年でありました。

皆さんのまちづくりへの深いご理解とご協力に心から感謝とお礼を申し上げます。

都市が地方の人口をのみこむ深刻な影響が続く闘いでは、失ったものばかりではありません。私たちが新たに気付かされたことも少なくありません。

それは、積丹半島先端の地の「人の力」と「郷土の自然」の価値の発見と創造です。

12月19日文化庁長官表彰を受賞され世界的な造形家として東京で活躍されている美国町出身の竹谷隆之さんが、自身の作品展の会場として選んだ「旧ヤマシメ番屋と石蔵」、知名度高まる「積丹ジン」、「積丹しおかぜ羊」、「アウトドアガイド拠点づくり」、「ブルーカーボンへの挑戦」、「ワーケーション岬の湯」、「積丹ブリツアー」、「神威岬灯台歴史探訪ツアー」、「積丹ブレンドコーヒー」など、積丹町の「内から見てきた視点」と「外から見た視点」との融合による新たな価値の発見と創造の成果が町内各地区で生まれました。

私たちは、改めて郷土積丹の価値と可能性への挑戦を大切に育て、「町の健全財政の維持」と「行政サービス水準の維持」と「町の活性化」という3つの課題の克服と両立を基本に、医療体制の維持や生活インフラ・公共施設老朽化対策、防災減災対策、高齢者福祉の増進、新たな少子化対策など、多くのまちづくり懸案課題の解決を目指し、また『食と観光』や『ゼロカーボン北海道』への寄与など、全道179市町村の一員としての使命と信頼を担い、町民と議会と行政が共に力を合わせていかなければなりません。

私は、国や道・民間機関など本町の地域創生に情熱を燃やす「積丹応援団」の方々との協働の力と信頼関係、そして町民の皆さんの融和と郷土愛を大切に、私たちの「郷土・積丹のまちづくり」に弛まぬ努力を続けてまいります。

令和6年の新春を迎えて、皆さんのご多幸とご健勝を心から祈念し、年頭のご挨拶といたします。

2024年 新年おめ

迎春

「積丹に生きることに誇りがもてる町づくり」

積丹町議会議長　岩本幹兒

積丹町の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

令和6年の新春を町民の皆さまと共にお迎えできましたことを心からお喜び申し上げます。

常日頃、積丹町のため、自分の家族を守るために懸命に頑張っている町民の皆さまから温かいご支援とご協力を賜り、心から感謝と御礼を申し上げます。

新しい年を迎えましたが、記録的熱波・大雨といった言葉に象徴される異常気象によるますます高まりつつある自然災害の脅威、新型コロナウイルス感染症によるなんとなく漂う不安感、いまだに終息の見通しがたたないウクライナの戦況、さらにはますます混迷を深めるイスラエル、パレスチナの戦況、中国経済の急激な減速化による日本への影響、日本国内の物価高騰、貧困層の増加、格差社会の拡大などといった厳しい状況にあります。

弱者救済、相互扶助、平和への願いの精神が今こそ求められている時代はないといっても過言ではないと思います。

少子高齢化、人口減少・過疎化、産業の衰退などといった激しい波の中でもがき続けている積丹町ではありますが、まだまだ発展の可能性がある町であることは確かです。

私たち議会議員も皆さまが「積丹に生きることに誇りがもてる町づくり」、一人でも多くの町民が笑顔で「積丹に暮らしてきて良かったと思える町づくり」に向かって知恵と力を出し合って全力で頑張ってまいります。

このような現在の厳しい状況に負けることなく、「絶対に負けない。」という強い信念を持って町民の皆さま、頑張りましょう。

町民の皆さまのご健康とご多幸、さらには令和6年が積丹町にとって、町民の皆さまにとって今年こそ良き年になることをご祈念申し上げまして、町議会を代表しての新年のご挨拶とさせていただきます。

「広報 しゃこたん」で振り返る辰年の『郷土』

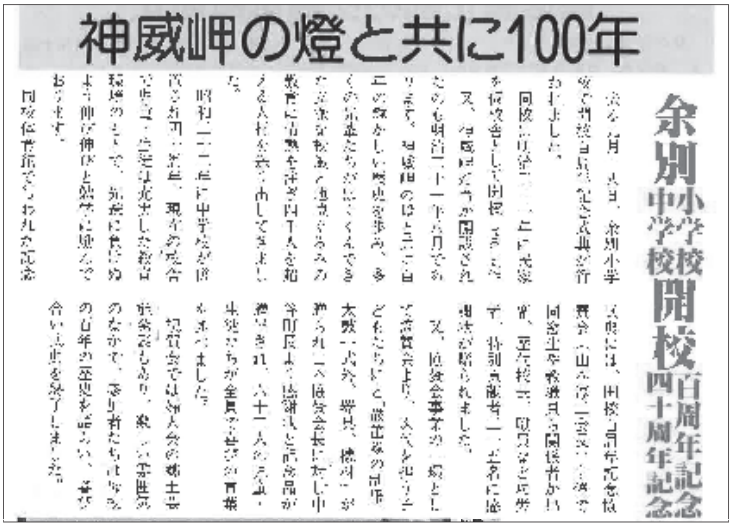
～２０２４年 新たな年を迎えて～

2024年、今年の干支は「辰」です。昭和31年に積丹町が誕生してから68年。
その歴史の中で「辰年」の出来事を「広報 しゃこたん」で振り返ります。

◀昭和63年（1988年）10月号（第323号）

9月18日、余別小学校開校100周年・余別中学校開校40周年記念式典が開催されました。余別小学校は、明治21年に民家を仮校舎として開校しました。

また、同年（明治21年）には神威岬灯台が開設されました。式典に参加した地域の皆さんと62人の児童・生徒は神威岬の灯とともに歩んだ100年の歴史を語らい、喜びました。


神威岬の燈と共に100年

余別小学校 中学校 開校百周年記念 四十周年記念

◀平成12年（2000年）9月号（第465号）

8月15日、美国漁港でブリが1日に3，400本の水揚げとなり、30年ぶりの大漁となりました。また、5日後の8月20日には、マグロ1，800本も水揚げされ、本格的な漁期を前に幸先の良いスタートとなりました。

令和5年8月では、1日最大6・2トン、約1，000本で、盛漁期の11月には1日最大40トンの水揚げとなっています。

◀平成24年（2012年）3月号（第603号）

積丹産カラマツを使い、「木の良さ」と「木材の地産地消」の町のPRを兼ねた木造公共施設・野塚地区ふれあい交流館の完成見学会が1月31日催されました。

野塚地区ふれあい交流館が完成し、見学会が開催されました。地域の皆さんによる神楽の披露や、町内会と婦人会が用意したゴッコ汁やすり身汁が振る舞われ、完成を祝いました。

積丹産カラマツを使用して建設された当施設は、地域の様々な拠点施設として活用されています。

◀平成24年（2012年）6月号（第606号）

5月21日に日本の広い範囲で「日食」が見られました。午前7時40分頃には日司小学校児童が日食グラスを片手に観察。神秘的なショーに歓声が上がりました。